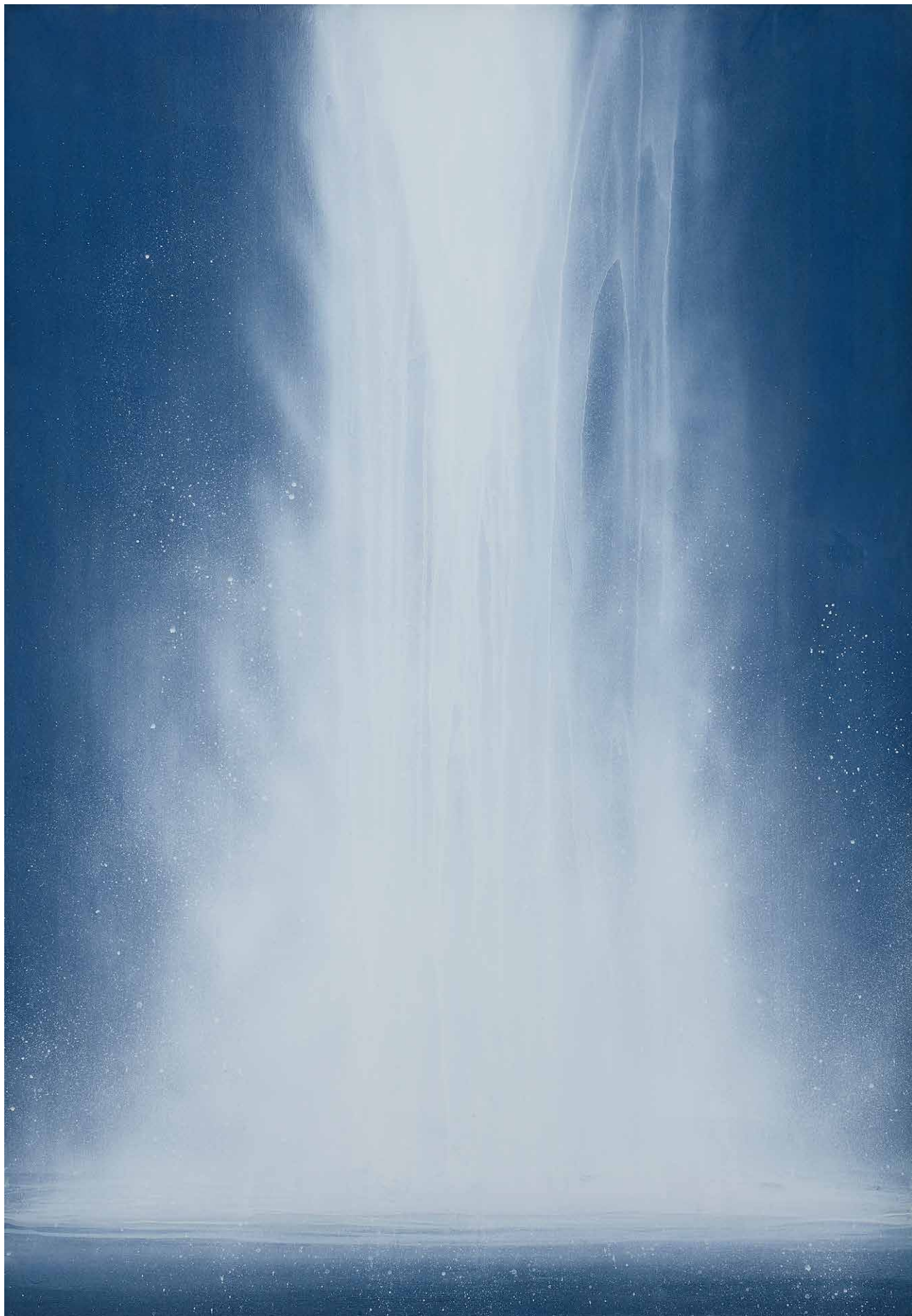


千住博の傑作、1995年作の《Waterfall 瀑布》を見た。

千住博の代表作として、今やあまりにも有名な《Waterfall 瀑布》シリーズ。そのシリーズの最初期に描かれた秘蔵の傑作が公開される。

文 ■ 大島幸治 [思想研究者]



《Waterfall 瀑布》 1995年 岩絵具、和紙 162.1×97.0cm

大島幸治 おおしま こうじ

1954年東京生まれ。思想史研究者。慶応義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了。博士(経済学)。実践女子大学短期大学部非常勤講師。18世紀スコットランド啓蒙周辺の文法論・言語哲学・道徳哲学を研究テーマとし、現代の文化現象まで幅広く論じる。著書に『アダム・スミスの道徳哲学と言語論』(御茶の水書房)、『ファッション・クリエイションのひみつ』(東京堂出版)他。

Hiroshi Senju

かつて空海は、「声字実相義」の中の頌で「五大皆有響 十界具言語 六塵悉文字 法身是実相」と謳った。宇宙を構成する五大要素は、みな音響を発している、自然の言語・文字であり、宇宙の根源的存在である法身大日如来の流出だと、空海は言う。千住作品の

前であれこれ考えている私の思考言語も、自然界が発している響きの反映ならば、脳の中で響いている実在しない滝の音も、宇宙をあまねく満たしている音響・言語・文字の表れかもしれない。

この絵の迫力の根源は、自然界に満ちる音をかき消す、滝の轟音にこそある。人間は、天体の音楽、自然が奏でる響き、叫び声を耳にして、この生身を守るだろうか？ たしかムンクが「叫び」で描いたのは、「夕暮れ時に自然が発している恐ろしい叫び声」から身を守ろうと耳を塞ぐことではなかったか。黄昏の空間を貫くのは、昼間の営みに疲弊して「死↓再生」の夜の闇に沈もうとする自然の叫び、地球の悲鳴。人間に聞こえるはずがない大自然の叫びをふと聞いてしまったら、身が持つはずもない。

千住博の絵を眺めると、滝のザッという音が、宵闇に自然が放つ叫び声を遮断し、同じ周波数の打ち消し

物理的に静まり返った画廊の中で、私の頭の中には実在しないザッという音が充滿した。リアルな映像表現を前にした脳は、記号性に反応して滝が落下する音響を聞くのである。轟音の中で私の心は、逆にどんどん静まって癒されていく。

この絵の迫力の根源は、自然界に満ちる音をかき消す、滝の轟音にこそある。人間は、天体の音楽、自然が奏でる響き、叫び声を耳にして、この生身を守るだろうか？ たしかムンクが「叫び」で描いたのは、「夕暮れ時に自然が発している恐ろしい叫び声」から身を守ろうと耳を塞ぐことではなかったか。黄昏の空間を貫くのは、昼間の営みに疲弊して「死↓再生」の夜の闇に沈もうとする自然の叫び、地球の悲鳴。人間に聞こえるはずがない大自然の叫びをふと聞いてしまったら、身が持つはずもない。

千住博は、絵画という無音の表現媒体で滝の轟音を表現し、しかもその轟音が自然の危険な叫びを打消し、静寂を生む理路を顕現させる。静けさに秘められた理路に思い至った時、この絵の宗教性、神聖な存在の気配と慈愛が迫ってくる。同時に、自然の営みの恐るべき「力」の気配が秘められている。自然は、時として千住博のような美術家の手を用いて自己の秘密の一端を開示するのだろうか。

銀座・永井画廊で、オーナーである永井龍之介氏の秘蔵の逸品、千住博《Waterfall 瀑布》(1995年作)を見た。連作中、最高傑作と言っているだろうか。和紙に岩絵具の1000号。その迫力はまさに圧倒的。無用な解説などやめ、作品と対面した体験を語ろう。

絵の前で「心」は静謐に沈んでいく。なぜだろうか？ 近代の神道家、友清歡真は「変動のない一定の音響を聴く」修法で心身が浄化されると論じたが、宇宙の声を反映している「変動のない一定の音響を聴く」からだろうか。存在しない滝の音に包まれていると、自然界の音響は人間を清明の境地に誘い、心身回復をもたらすという。

千住博は、絵画という無音の表現媒体で滝の轟音を表現し、しかもその轟音が自然の危険な叫びを打消し、静寂を生む理路を顕現させる。静けさに秘められた理路に思い至った時、この絵の宗教性、神聖な存在の気配と慈愛が迫ってくる。同時に、自然の営みの恐るべき「力」の気配が秘められている。自然は、時として千住博のような美術家の手を用いて自己の秘密の一端を開示するのだろうか。

合う逆の波形の音響を発していると感じるのだ。絵が記号的に発する、滝の実在しない轟音が、まさに絵を見つめる者を守ってくれている……そんな妄想に立ち至った。自然が発する叫び声を打ち消す轟音を秘めていることで、この絵は超絶的な迫力と存在感を放ち、自然の慈愛を宿す。

千住博は、絵画という無音の表現媒体で滝の轟音を表現し、しかもその轟音が自然の危険な叫びを打消し、静寂を生む理路を顕現させる。静けさに秘められた理路に思い至った時、この絵の宗教性、神聖な存在の気配と慈愛が迫ってくる。同時に、自然の営みの恐るべき「力」の気配が秘められている。自然は、時として千住博のような美術家の手を用いて自己の秘密の一端を開示するのだろうか。

千住博は、絵画という無音の表現媒体で滝の轟音を表現し、しかもその轟音が自然の危険な叫びを打消し、静寂を生む理路を顕現させる。静けさに秘められた理路に思い至った時、この絵の宗教性、神聖な存在の気配と慈愛が迫ってくる。同時に、自然の営みの恐るべき「力」の気配が秘められている。自然は、時として千住博のような美術家の手を用いて自己の秘密の一端を開示するのだろうか。

Exhibition

千住博 展
—最初の「ウォーターフォール」シリーズの1点
シリーズ史上最高傑作展示—
▶4月1日～5月13日
永井画廊

画家自身もシリーズ最高傑作と語る、掲出の秘蔵作をはじめ、1996年に同画廊で初めて公開した銅版画(車木工房)18作のうち6作を展示。

住所 ■ 東京都中央区銀座8-6-25 河北新報ビル5F
電話 ■ 03-5545-5160
開廊時間 ■ 11:00～19:00
休廊日 ■ 土曜日、日曜日、祝日
アクセス ■ 東京メトロ「銀座」駅より徒歩6分、JR
および東京メトロ「新橋」駅より徒歩5分
URL ■ <http://www.nagai-garou.com>

せんじゅひろし 千住博展

「ウォーターフォール」シリーズ
史上の最高傑作

特別展示

銀座・永井画廊で2011年軽井沢千住博美術館開館記念展以来となる個展が開催される。この度の展覧では1995年、画家がヴェネチアビエンナーレで東洋人初、日本画史上で初の名誉賞を受賞した最初の貴



「ウォーターフォール」1995年 162・1×112・1cm 岩絵具、紙

重な『ウォーターフォール』の二作、シリーズ史上の最高傑作が特別展示される。オリジナル銅

が新型コロナウイルスの感染症拡大で動揺、震撼する中、千住氏がニューヨークから人々を勇気づける緊急メッセージを寄せてくれた。以下、全文掲載。

1995年の滝に寄せて—今なぜ95年の滝を特別公開するのか

千住博

私達は、バブルの崩壊、同時多発テロ、東日本震災等様々な困難に立ち向かって現代文明を生きています。1995年にこの作品を描いた背景にも、様々なことがありました。そして3月に起こったのが地下鉄サリン事件でした。コロナの蔓延で大変な2020年ですが、1995年も日本にとつては本当に過酷な状況でした。

そんな中、清らかな水が美しく流れ続ける滝のシリーズを始めたのもこの1995年です。ひるがえって、絶望的な雰囲気の中、今まで芸術は何を残してきたか。第一次世界大戦のさなか、デュシヤンが発表したのは、例の衝撃的な「泉」でした、この作品によつて、新しい価値観である現代芸術は産声を上げたとも言われます。

第二次世界大戦には、エルンスト、ミロ、マグリット、ジャコメッティ、ダリたちの夢の解放とも言える画業の中心が重なります。芸術は、悩む人の側に立ちます。そしてその心を発散し、勇気を鼓舞し、生命を激励します。それを示すのがこの大戦期間中の美術史の語るころだと思えます。1995年のこの滝には、この年の閉塞感を洗い流したい、人々がはじめから持っている生きる力を美によつて活性化してもらいたい、という気持ちが強かったと思ひ返ります。

2020年、見えない脅威に人々が苦しむこの年、1995年に制作した作品は、もしかしたら皆さんの心にわずかも力添えができるのではないかと思います。(日本画家)

4月1日(水)～5月13日(水) 永井画廊(東京都中央区銀座8-6-25 河北新報ビル5F) ☎03-5554-5160 困士・日・祝日 無料 開11時～19時